



宝島を拠点にトカラ列島各島へ～トヨタ財団助成プロジェクト 島の持続発展の仕組みと担い手人材育成でトカラ列島未来発展の新しい流れをつくる一検証提言



宝島の未来を語る
ワークショップ



トカラ列島の持続可能な仕組みと島の担い手育成をテーマに宝島を拠点に過去のトヨタ財団助成プロジェクトから「元気コミュニティづくり」、「島の人材育成」「島の産業おこし」等について検証・提言を住民チームと共にワークショップ等でさぐってきました。過去のプロジェクトでは若者の呼び込み作戦を展開してきましたが、宝島では下記の表に見るように人口が22年当時の1.3倍、子供の誕生で未就学児童が人口の1割となる等、島が元気づいて来ています。

これはIターン者の取組みと併せて、よそ者を温かく受け入れて育てる集落の受け入れ体制の良さにあると言えます。そして宝島では、移住者の取組みによって島の雰囲気が一変し、小さな変革が始まっている感じを受けます。

この変革は島が未来に向かって、持続可能性をもって発展する大きな要素であり、若者の呼び込み育て方、島の産業おこし、元気コミュニティづくり等について、住民チーム共に専門家の助言を受けながらワークショップ、現地調査、セミナー等で検証・提言し、宝島モデルとして報告書にまとめております。宝島においては具体的実行にむけ年次的展開が期待されておりますが、これが宝島を拠点にトカラ列島未来発展の新しい流れに繋がるよう各島での取組みに期待したいと思っております。

宝島の10年間人口とIターン移住者・未就学児童等の推移（住民基本台帳人口）

年次	2005	06	07	08	09	10(H22)	11	12	13	14	15	計
人口	119	120	116	112	112	92	105	111	111	120	132	
未就学児童数	0	0	10	5	3	2	5	7	5	9	12	
U i ターン者	0	0	0	1	1	14	7	5	0	3	2	33
内 i ターン者	0	0	0	0	0	5	4	5	0	3	3	20
移住家族数						3	2	2	0	1	2	10

トピックス1

移住につながる援農体験交流事業

～都市若者・移住希望者など15名が体験。中之島への1家族の移住につながる～

県の事業委託を受け、都市部の若者等外部人材を呼び込み、農畜産業に関する滞在型の援農体験ボランティアチーム「十島三島援農隊」として計15名（口之島2名、中之島7名、諏訪之瀬島1名、宝島5名）の派遣を行い、農作業の人手不足の解消や高齢化による耕作放棄地・放置竹林の再生作業を実施いたしました。高齢農家の果樹管理作業や1ターン者の島らっきょうの植え付け・収穫作業・畜産の管理作業などの一次産業の体験だけではなく、島民とのふれあいや伝統産物を使った夕食会など、他では経験することができない体験ができたとの感想を多くいただいております。

また、この事業を交流人口の拡大とあわせて移住希望者の体験移住の機会ととらえ、移住希望者を優先的に派遣した結果、移住希望4組のうち1家族（3名）の中之島への移住に繋がりました。

今回の事業は十島村だけではなく、共通の課題を抱える三島村へも5名の援農隊を派遣し、宝島で検討や交流会も実施し、村間・島間の交流も活発化し今後の連携が期待されております。



トピックス2

特産品が選べるふるさと納税で寄付額大幅増加

～NPOでパンフレット企画・情報提供・現地調達・梱包発送までの一連の業務管理～



平成27年度は役場と連携し、ふるさと納税の返礼品を選べるパンフレットの企画提案を行い、インターネットサイトでの情報提供や現地からの特産品の調達、梱包発送までの一連の業務管理をNPOが担当しました。昨年の5倍にあたる1,670万円と大幅に寄付額も伸び、十島村の増収や生産者の所得の向上、特産品PRに繋がりました。

なかでも、島バナナ・びわ・たんかん・スイーツリング等の果樹類の人気が高く、多くのご注文をいただきましたが、たんかん類は不作の為、代替商品での対応になりました。

今後は需要拡大に伴う商品確保が急務となってくるため、生産面積の拡大や担い手人材育成など島の一次産業の振興とセットした形で進めていくことが極めて重要であると思われま

トピックス 3

放置竹林の資源化・トカラ田芋の復活作戦

－竹パウダー実証試験や田芋の棚田復活作戦でトカラの資源をフル活用－



■島の放置竹林を宝の資源に、島の大半を覆っている放置竹林を宝の資源として活用するために、中之島の高尾地区で実証的とりくみを行いました。竹裁断粉碎機は鹿児島から小型機で軽トラックに積載できる島適用型の機械を借りて実証しました。竹粉碎能力は一時間当たり0.8tと作業性も高く筍農園づくりと一体化した多様な竹資源活用に期待されております。

■荒廃棚田の開拓・棚田の復活田芋の里づくり・村独特の伝統産物である田芋の再生復活をはかるために中之島サツダで田芋の里づくりをすすめました。5人の所有者に相談し地籍面積5アール、実面積アールに植付けで田芋の里づくりをスタートさせました。小区画の開墾作業パイプ導水等、開田には多くの課題がありますが、荒廃棚田活用の実証展示として期待されております。



トピックス 4

大名竹の子販売作戦ートカラ大名竹の子朝市でPR

～トカラ大名竹の子「結プラザ朝市」市民交流試食販売で賑わう～

今年の大名竹の子の出荷は、諏訪之瀬島から例年と比べて10日ほど遅れて4月13日に出荷が始まりました。トカラ結プラザでは市場出荷式に併せて4月19日（火）10時から店頭に出荷した新鮮な竹の子を並べて「トカラ大名竹の子朝市」を開催し、竹の子メニュー3品ほど試食を用意して宣伝販売を行いました。開店には早くから市民や出身者がつめかけ、大変な賑わいでトカラの大名竹の子を市民交流の形でPRすることができました。お客さんの中にはパスタ料理店長もみえて、パスタ料理に使いたいと5kgほど買って行かれました。今年の販売は熊本大震災の影響による観光客の減少でホテル等からの購入も少なく、市場価格も例年の半値に近い販売でしたが、NPOでは首都圏市場や居酒屋チェーン店との販売ネットで例年以上の価格で販売を展開しております。



みんなの結プラザ

NPO法人トカラ・インターフェイス・トカラ結プラザは、特産品販売イベントをはじめ毎月さまざまな取り組みを行っております。平成27年6月～平成28年3月までの主な活動を旬の食材と一緒にご紹介します。



お知らせ

結プラザで特産品販売やネットショップを担当しておりましたスタッフの谷山さんが9月末日で寿退社いたしました。10月から新しいスタッフが引き継いでおりますのでご紹介させていただきます。

☆☆☆

はじめまして。昨年10月より結プラザのスタッフとしてお世話になり、販売事務・経理の担当をしております阿部 珠美と申します。

今まで全く十島村には縁がなく、見るもの聞くもの初めてのことばかりで日高代表をはじめスタッフの方やいらっしゃったお客様よりいろいろと伺いながらひとつずつ学ばせていただいております。まだまだ助けていただくことばかりで力不足を痛感しておりますが、微力ながらも十島村に貢献できるよう皆様のお力をお借りしながら頑張りたいと思います。

何とぞ前任者と変わらず、よろしくご指導くださいますようお願いいたします。

結プラザスタッフ 阿部 珠美

6月の旬 とびうお・大名たけのこ

鹿児島 城山観光ホテル商工会議所販売会
フェリーとしま 船上トカラ市
奄美市 トカラ奄美市

7月の旬 島バナナ・サワラの燻製

鹿児島中央駅トカラのめぐみ味わいフェスタ

8月の旬 島バナナ・島きゅうり

9月の旬 島バナナ・しょうこうみかん

東京 国際フォーラム 町イチ村イチ

10月の旬 青パイヤ

始良市 畜産共進会
鹿児島 アリーナ 国民文化祭ウェルカムイベント

11月の旬 スイートスプリング・田芋

フェリーとしま 船上トカラ市&トカラ奄美市
鹿児島 ジェイドガーデン国民文化祭&トカラふるさと会
十島村 トカラマラソン
鹿児島 ドルフィンポート前 オーガニックフェスタ
東京 池袋サンシャイン アイランダー2015
鹿児島 城山観光ホテル 丸ごと味わうフェア
鹿児島 ドルフィンポート前島々フェア

12月の旬 田芋・島らっきょう

1月の旬 島らっきょう・むきつわぶき

2月の旬 島らっきょう・たんかん

鹿児島 自治会館 ふるさと市場

3月の旬 びわ

鹿児島 自治会館 ふるさと市場

ごあいさつ

設立10年目の節目の年であった平成27年度は、トカラ結プラザを拠点にしたトカラ特産品の宣伝販売、各種イベント出店でトカラ特産品の売り込みと併せたトカラの観光PR、そしてトヨタ財団助成プロジェクトや県の共生・協働事業等、NPOが1ターン者の定住支援・トカラ地域貢献活動を展開した充実の年であったと思っております。これを28年度への新たな展開に繋げるためには、住民・会員、村行政等の支援協力が不可欠と考えておりますので、一段の支援ご協力宜しくお願い申し上げます。

代表理事 日高 重成・役員一同、スタッフ職員 埜口 裕之 阿部 珠美

ホームページ「トカラかわら版」

<http://www.tokara-yui.net/>

E-mail tokara@feel.ocn.ne.jp